

日本版 B P S D ケアプログラムの実施について

1 事業の概要

介護サービス事業者等の認知症ケアの質を向上し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進するため、東京都が平成 30 年度から開始した、認知症とともに暮らす地域あんしん事業補助事業における認知症ケアプログラム推進事業（補助率 10 / 10）を活用し、「日本版 B P S D（認知症の行動・心理症状）ケアプログラム」を導入する市内の事業者を支援するもの。

2 日本版 B P S D ケアプログラムとは

東京都が、公益社団法人東京都医学総合研究所と協働し、認知症ケア先進国であるスウェーデンで開発されたケアプログラムをもとに開発したもので、B P S D の症状を点数化し、「見える化」することで、ケアに関わる担当者が情報を共有するオンラインシステムを活用し、ケア計画の策定等を行うもの。

都は、2 年間で 3 区市の介護サービス事業所 44 か所の協力を得て実証実験を行った結果、認知症高齢者の B P S D の症状が改善した事例が多く見られたことから、都内全体に普及を進めている。

イメージは、プログラムの紹介リーフレットの資料 6 - 2 を参照。

3 青梅市における取組内容

- (1) 実施予定年度は、令和元年度から、令和 2 年度までの 2 年間で予定
- (2) 補助基準額は、1 事業所あたり 7 万円
- (3) 補助対象経費は、補助対象事業の実施に必要な、パソコン、タブレット、スマートフォン、無線 LAN ルーター等機器の購入費、初回契約料金および設置工事費
- (4) 補助率は、10 分の 10
- (5) システムに入力したり、活用するための研修等は、市が実施します。

4 その他

青梅市では、令和元年 5 月 1 日現在、8 事業所（9 人）が研修を受けております。6 月以降、改めて市内事業所に周知を予定しています。詳細な内容については、東京都のホームページの中にある、「とうきょう認知症ナビ」をご覧ください。

以上

日本版BPSDケアプログラム



行動心理症状をメッセージとして読み解く



公益財団法人
東京都医学総合研究所
Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science

「誰かに大切な物を盗まれた」

「そこに、いないはずの人が見える」

これまで「病気だから」と捉えられていた
認知症の方々の“問題行動”には、実は“意味”がありました。

「病気だから、もう自分たちの手に負えない、治らない」と
考えてしまいがちだった認知症の方々の行動を、正しく翻訳することで、
心の中にある“想い”“願い”を知ることができる。

そんな“メッセージ”、“ヒント”を解析し、
たしかなケア戦略を導き出すために生まれたのが、
認知症ケアの質を最大限に高めるシステム『DEMBASE』を用いた
日本版BPSDケアプログラムです。

認知症に向きあうすべての人の拠り所となり、
より質の高い認知症ケアへの指針となることを、めざします。



参加・導入にあたって

- アドミニストレーター研修を受けることで、このプログラムに参加できます。
- プログラムの参加に関しては、各自治体担当者にお問合せください。

日本版BPSDケアプログラムとは 行動心理症状をメッセージとして読み解く

DEMBASE(デムベース、英称:DEMENTIA Behavir Analytics & Support Enhancement)を用い、ケアスタッフの皆で行動心理症状の《観察・評価》、《背景要因の分析》、《計画》、《実行》の4ステップを繰り返しながら、ケアの質を高めていきます。

例 物盗られ妄想があり、家族に頻繁に電話をする人の場合

